

業界の声

● 山梨県ワイン酒造協同組合

顧問 望月 太氏



近年のワイン消費動向は？

ワインの消費量はブームの度に着実に増加していき、平成10年の第4次ブーム(健康食品ブーム)の際は赤ワインに含有されるポリフェノールが注目されたことで、出荷量、消費量ともにピークを迎えました。翌年はブームの反動から徐々に減少したものの、ピーク時以前と比較すれば高い水準で、ほぼ横ばいで推移しています。ちなみに製造量では、山梨県が全国に対し約35%を占め1位となっています。

業界の現況と今後の展望

一昔前と比べ、家庭でワインが頻繁に飲まれるようになり、比較的手頃な千二百〜千三百円のワインが売れ筋となっていますが、今後はその価格帯を2、3千円台へシフトしていきたいと考えています。価格が多少高くても品質が良く、消費者がその価格に妥当性があると納得さえすれば購入してもらえらると思います。本組合では3年ほど前から、山梨大学、山梨県工業技術センターと連携し、共同で新商品の開発に取り組んでいます。国産ワイン発祥の地として、県産ワインのブランドと品質水準の向上に努め、消費者の方に満足していただける商品を目指しています。

また、県内ワインの今後の方向性として、辛口を中心に味に厚みと香りなど個性を持たせた甲州ワインを多数展開し、消費者の方には多様な商品から自分好みのワインを探し出して楽しんでいただきたいです。

業界として取り組んでいくこと

毎年11月、東京・日比谷(文化の日)と甲府・小瀬(県民の日)で県産ワインのPR活動の一環として「新酒ワインまつり」を開催しています。このイベントは今年20年を迎え、毎年県内のワイナリーが出展し、大変な人気を博し県産ワインの魅力を伝えていきます。また、3年前から山梨のワイン消費拡大を狙って、「県産ワイン・試飲商談会」を実施しております。この他に、山梨県主催で国際ワインコンクールを開催し、国産ワインの品質と認知度の向上を図っています。



多くの人でにぎわう「新酒ワインまつり」